

平成 20 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

3 地球温暖化及びヒートアイランド対策のための技術支援に関する研究

テーマ1 地球温暖化対策のための技術支援に関する研究

テーマ2 ヒートアイランド対策の技術支援に関する研究

[総合評価とコメント]

- 地球温暖化やヒートアイランドの問題は、現在では市民意識の中で環境問題の中心的存在という位置づけになっていることから、行政的なニーズの高いテーマである。特に近年は、地域からの地球環境対策という切り口がしばしば言われるようになり、地方公共団体の役割を重視する声も多い。
本研究課題はそのようなニーズに即して設定されたものであり、適切な課題設定といえる。計画内容も所要事項を一通り含んだものとなっているが、県のセンターが独自に実施する研究としては、限界もあるのではないかと推定される。他研究機関の研究動向を把握した上で、県として独自に実施する必要がある部分と、他で得られた知見をベースに地域特有の要素を加味していく部分とを、明確に切り分けることが有効ではないかと考えられる。
- テーマ1では、県内および市町村別の温室効果ガス排出量の推計に取り組んでいる。排出量の推計は、近年、環境分野で注目を浴びている地球温暖化対策を実施し、その効果を検証するうえで不可欠である。今後、部門別に排出量が推計されれば、発生抑制に重点的に取り組むべき対象が明確になり、この問題に効果的な施策を立案する上で役立つと考えられる。
テーマ2では、新たな指標として「暑さ指数」を導入した点や具体的な緩和対策の効果を検証している点が興味深い。将来的に、ここで検討した緩和対策がどのくらい普及するとどの程度の緩和効果が得られるかといった話にまで発展すると面白い。
- ヒートアイランド緩和対策の効果を調べるという実験的、実践的方法を採用していることは、適切と評価できる。
- 建設リサイクル資材の LCA、県の建設工事で成果を評価し、民間の工事にも税制等でのインセンティブを与えるなどの行政施策へ活用して欲しい。
壁面緑化は建物の省エネには有効かと思うが、ヒートアイランド対策としての効果を検証するのは難しいのではないか。
- テーマ1：地球温暖化問題に対する、県レベルでの対応として、排出量の推計の精度を向上させておくことは重要と考えられる。いずれ全国的なデータとして活用されることが予測されるので、全国的なシステムとの整合性が必要になるであろう。
テーマ2：ヒートアイランド現象については、どの程度の範囲（広さ）を対象にしているのかを明示した方が良いのではないか。また緩和対策を行った場合、エネルギーに換算して、どのような効果になるのかが評価できるとわかりやすくなると思われる。
- 地球温暖化およびヒートアイランドとは、意義、機構を異にする課題であるが、広域的な環境問題として重要なことは論をまたない。必須の研究対象と言える。温暖化ガスの見積もりは、地域の特性を把握しつつ精度の向上が望まれる。建設資材という言わば個別課題を掘り下げて検討することは今後の対象の拡大にも基礎となる有用な研究と考えられる。
温熱環境の指標化は住民の理解を深めるためにも必要と考えられる。人体の快適性を議論するには汗の蒸発つまり湿度条件を見込まざるを得ない。容易なこととは言えないが、その重要性は、明白であると言える。

(数値的評価)

★評価者6名

〈評価の内容〉	〈評価項目〉	〈ランク〉					
課題設定の妥当性	○背景と必要性	5 (3人)	4 (3人)	3 (0人)	2 (0人)	1 (0人)	
	○優先性	5 (3人)	4 (2人)	3 (1人)	2 (0人)	1 (0人)	
計画の立案と実施方法	○研究内容	5 (0人)	4 (4人)	3 (2人)	2 (0人)	1 (0人)	
	○計画の妥当性	5 (2人)	4 (1人)	3 (3人)	2 (0人)	1 (0人)	
研究の進捗状況	○進捗状況	5 (0人)	4 (5人)	3 (1人)	2 (0人)	1 (0人)	

※ランクは、5点満点の評価で5（優）～1（劣）